



明けましておめでとうございます。子どもたちの元気な声と笑顔とともに、新しい年が始まりました。戸外で遊ぶと、子どもたちの顔も冷たさで少し赤くなっていますが、どんなに寒くても子どもたちは走り回ったり、乗用玩具や複合遊具で遊んだり、体を動かして遊ぶのに夢中です。たんぽぽ組での生活も残り3か月となりますが、一日一日を元気いっぱい過ごしていきたいと思ひます。お正月休み明けで生活リズムが崩れやすい時期でもあるので、規則正しい生活を心がけていきたいと思ひます。今年もよろしくお願ひいたします。



〈今月の目標〉

- ・寒さに負けず、友達と一緒に戸外で体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・保育者や友達とかかわる中で、自分の思ひを言葉で伝えようとする。



【お願ひ】

着替えの際、子どもたちは自分で着替えの服を引き出しから出したり、脱いだ服をかばんにしまう作業を頑張っています。その時に引き出しから服を出しすぎてしまって、辺りに服が散乱することがあります。他の子の服を間違えて引き出しに入れてしまうこともあります。衣類に名前が書かれていないと、持ち主が分からなくなってしまうので、今一度名前前の記入漏れがないかの確認をお願ひします。

○●○子どもの『困った』に対する対応のヒント○●○

「〇〇するのは嫌だ、～をしたい」という思ひがはっきりしてくる時期です。自己主張が強くなるので、子育ての大変さをあじわう時期ですが、できる範囲で子どもの思ひを満たすことが大切です。

◇最近、「食」に興味がなく、食べずに遊んでばかり…

→味覚が育ってくると、苦い、酸っぱいといった微妙な味がわかりはじめます。「嫌な食感、味」などがわかるので、一時的に食欲が落ちることがあります。また、周囲への興味・関心が高まり、食べることよりも心がひかれるものが増えることも、要因の一つともなっています。無理に食べさせようとするのは逆効果なので、ほんの少ししか食べなかったとしても、「おいしかったね」「大きくなったかな」と肯定的な言葉で食事を終えるようにすることがコツです。そうすることで、「食べることは楽しい」と感じられます。

◇「いけない!」と言うと、わざとふざける

→言葉の意味をわかっているのに、決まりを守ったり、約束を理解することはまだできません。危険なことは言葉だけでなく行動で止めましょう。「〇〇したかったんだね」と子どもの気持ちに共感するとともに、危ないことを伝え、「〇〇だったらいいよ」と別の提案をするのも大事です。

◇一人でできるのに、甘えてくることもある

→一人でできるようになっても、赤ちゃんのように甘えたいときがあります。自立と依存の間を行ったり来たりしながら自立に向かうので、対応の基本は「やって」といわれたらやってあげ、「自分でする」と言ったら見守ります。拒否されると、何とか自分の気持ちを通そうと、より強く主張します。甘えていたかと思ったら自分でやると言い出し、「どっちがいいの?」となることもあります。この時期は丁寧な受け止めが大切です。